JAXA の宇宙環境利用センターの田中哲夫センター長が資料 3-2 (日韓協力) を 9 分弱で説明した後、15 分弱の質疑応答があった。(韓国発の宇宙飛行士「コ・サン」氏 (31 歳) が宇宙ステーションに短期滞在する際に、JAXA が開発した「個人被曝線量計」と「ハイビジョンカメラ」を利用すべく、日韓が協力することで合意した。また、将来日本実験棟「希望」共同利用に向け、フィージビリティスタディを行なうことについても正式に合意した。)

青江：ロシアのプレジ (？) で以て、こう、行って来る訳ですね。あの、有償ですか。

JAXA 田中：KARI はロシアに、打上げそれから滞在の経費を支払ったと云う風に聞いて居ります。

青江：という事だと有償ですね。で、先行き「きぼう」を韓国にもどうぞ利用して下さいと云う事ですよね。その際は有償ですか[1]。

JAXA 田中：今回の協力検討は共同で使って、韓国の実験装置を作って頂いて共同で使えないかと云う、どちらかと言えば無償で相互利用を実現出来ないかという形で、

青江：何でそう云う形で、どうぞお使い下さいと云う事ではいかんの。

JAXA 田中：まあ、今回の協力の検討が先ず始まった理由は、日本と韓国の研究者相互に、日韓宇宙環境利用セミナーと云う形で、相互の研究協力の検討の会合を毎年一回やってるんですけれども、今まで 4 回実施して来て居りまして、

青江：ムニャムニャは良いんですよ。そう云う形でこうやって来て、ホイで向こうに先方にですね、兎に角「きぼう」を利用して、自分たちの実験装置を作って持って行って、「きぼう」で以て、其処で設置して使って見ようと云う意欲が出て来た訳ですね。

JAXA 田中：はい、其の通りです。

青江：そうしたらどうぞお使い下さいと、一定のスペースを、と云う事では何でいかんの[2]。

JAXA 田中：あの、まあ、韓国サイドとしては、日本と共同で使いたいと云う提案御座いました[3]ので、其れを先ず検討しますと云う事で今やって居ります。で、尚、韓国が自分の実験を独自で使いたいと、韓国だけで使いたいと云う要望があれ

---

[1] 有償と考える方が自然であろう。更に、ISS 搭載条件を満足している事を確認するための、評価試験についても有償で行う事も考えられる。更に、韓国が設計要求を纏められないなら、技術支援を輸出する事まで可能である。

[2] 極めて明快な質問だと思うが、説明者に伝わっていない。国際活動を行うに際し、基本的に考えておくべきことが考えられていないので、この様な事になるのではないか。

[3] 「韓国の発案である。」と云っているようだが、一寸不自然に感じる。韓国が衛星開発で経験したことから推測すれば、宇宙実験装置を開発したければ技術移転を考えるのが自然で、輸送と設置は有償で行おうと考えるのが自然だと思う。日本は ISS 計画で、コンペンセーションする事を学び、その思想の延長と、APRSAF の経験が日韓共同研究に繋がっている様に感じる。結果として、韓国にとって非常に有利な内容になっている。

ば、当然有償と云う形になって来ると思っております。

青江：今回の初期の段階はね、独自でやるだけの処までは行ってないと云うこと。

JAXA 田中：韓国側としては共同でやりたいと云う事で提案頂いてます[4]。

青江：日本側にとってメリットは。

JAXA 田中：あのー、その実験装置をどんなものにするかってのは、日本と韓国の科学者の要望に基づいて設定して行こうと云うのが、此のフィージビリティスタディの目的で御座いまして、此の装置が使えれば日本の実験実施にも役立つと云う事で、協力出来るのではないかと云うのが此の内容で御座います。

青江：日本の研究者が持ってる関心テーマ、此のテーマそのものは日本の此の「きぼう」を使ってのサイエンスのテーマ色々やろうとしてますよね、其れは一定の競争上にありますよね。良いものだけが上がって来ますよね。其れは其のチャンとしたスクリーニング、その場でのフラットな競争に耐え得るもの。

JAXA 田中：勿論、そう云う内容になると思っております。

青江：間違いなく。

JAXA 田中：はい。今回の日本側の実験内容については、日本の科学コミュニティの評価を得て、最終的に判断すると云う風に予定しております。

青江：其れには一定の費用が当然掛かりますよね。日本側にもね。其れで対価を頂きゃあホントは入って来ますよね。その分を足して、其れだけのお金を掛けても、日本のサイエンスコミュニティのレビューのパスするものだという保証は出来ますか。

JAXA 田中：今回の、ええと、

青江：要は日韓協力だからと言って、下駄をはいたサイエンスのテーマでは無いですとね。

JAXA 田中：そうならない様にですね、

青江：ならない様に？[5]

JAXA 田中：ええと、日本のですね、日本の研究者の実験内容については日本できちっと評価[6]して、競争に耐え得るものであると云う確認をして実施する予定です。

青江：だから日本のやるんなら、其のテーマは必ず費用との関係で、日本のサイエンスコミュニティのフラットな競争に耐え得るものと云うものでなければやらないと云う事なのかどうな

---

[4] 共同と云う事が認められれば、韓国は圧倒的に少ない費用で ISS 搭載機器の開発技術が習得できる。韓国のメリットは誰の目にも明らかなので、青江委員は次に日本のメリットについて質問している。しかしこれには直接回答していない。

[5] 此れまでの回答から、日刊宇宙開発協力に向けての基本姿勢が曖昧だと感じ、強く指摘したものと思う。日本で提案される実験装置の中から一つ余計に落選するのである。

[6] 日本の実験を評価してどうする。韓国の提案する実験装置を先ず評価しなければならない。また、韓国の作った装置を使う日本人が居なかったらどうなる。結果的に韓国が JEM にただ乗りした事になる。

のか。

JAXA 田中：其の予定で御座います。

青江：フラットな競争に。

JAXA 田中：はい。あの、当然費用対効果と云う考え方が入るとは思います。

青江：其れはどう云う意味。

JAXA 田中：あの、今回、我々の一つの実験を実施して行く為に必要となる、そう云う様な実験機会と云うものが確保された段階で、どう実施してくかって云うのが宇宙実験の進め方になって居りますし、まあ、今回は新しいテーマが実施可能となったと云うこと、新しい実験装置が利用可能な場合には、其れを日本の科学のフラットな評価の中で、選んでやっていくと云う風に考えて居ります。

森尾：やり取り聞いてるうちに却って分らなくなったんだけど、4 頁に書いてある「韓国が開発する小型実験装置」ってのは未だ決まってないんですか。

JAXA 田中：未だ決まって居りません。

森尾：多分今の御質問とも関連するんだと思うんだけど、日本の将来実験したいと思う事が色々ある中で、JAXA さんが或る一定のレベル、まあ、限られたスペースとかあるでしょうから、レベル以上のを選択して、優先権を与えて実験すると云う風なされると思うんですけども、其れと同じように、韓国が提案される実験装置をホントに実行するかどうかも、同じレベルで判断してされるんですか。

JAXA 田中：はい、

青江：韓国がですね、おやりになるんなら其れは其れでどうぞおやり下さいと。其れは一方ですね、正当な対価頂いたら良いんじゃないかと思うんですよ。それでですね、ジョイントで以て無償だと言うんだったら、其れだけの日本側の此の実施するテーマ、此れが日本の所謂サイエンスコミュニティの、此の中で平場でチャンと勝ち残れるようなバリューの高いものであれば、其れは其れで共同で無償と。お互いに利益を得るからね。其れならどうにかセーフだと。そうで無ければ、其れやっちゃいかんと、そう云う事です。

JAXA 田中：はい、十分、その様な進め方で行きたいと思って居ります[7]。

青江：良いですね。

JAXA 田中：はい。

松尾：APRSAF[8]でね、ワーキンググループたたき起こして、まあま

---

[7] 此の回答は極めて疑わしい。青江委員は最後の処で、条件を満たさなければ「其れやっちゃいかん」と仰っている。一つ選定される事が予め決まっているのに、韓国の装置がその選定順位内に入ると保証できる訳が無い。

[8] APRSAF とは趣が違うので此れを出したと思う。処が日韓協力は APRSAF と異なる趣とは思えないのが問題である。

また、APRSAF には別の問題がある。中国とは異なり、日本は APRSAF を覇権とは異なる感覚で捉えている。ただ、異なるとは言え、何であるかは明確になっていない。国際貢献とか人道的判断とは取敢えずの表向きの理由で、購買力の増強とか、余剰資金の運用の様な、本音の理由がある筈だが見えて来ない。

あ夫々接触してますよね。其れと此れとはどう云う関係になります。最後はやっぱりバイの話になっちゃうのかしら、APRSAF でも。

JAXA 田中：あの、APRSAF で実施を検討している協力には多分二つフェーズが有って、一つはまあ所謂トライアル的に、経験を積むと云う、まあ非常に小さなリソースの中でそう云う風な経験を積んで頂くと云う、どちらかと云うと促進的な話が有ると思います。で、今回の韓国との協力は非常にイコールパートナーとして、共同してハイレベルの研究協力が出来ないかと云う処が検討のスタートで御座います。

松尾：ハイレベルと云う処で、カテゴリーを目安を分けた処で、青江さんがさっきから言ってるような話が（割り込まれる）

青江：と云う事です。あのね、APRSAF でですね、まあ、国の名前はまあ上げん。要するにまあ支援て言いましょうかね。と云う国に対してのアプローチの仕方は其れは其れで一つあると思うんですね。で、正に今言われた通り、イコールパートナーとしてやろうと云うんだったら、其れは其れのやり方が有る。だから其処ん処はキチンとして下さい[9]と言ってる。

JAXA 田中：はい、明確に分けてですね、今回あの、正にイコールパートナーとして、更に研究内容についても両国の研究コミュニティが各々がキチッと必要性、実施意義を判断したものになれば一緒にやりましょうと云う事でフィージビリティスタディをさして頂こうと思ってます。

青江：研究者と研究者って言いましょうかね、グループでも良いんですけど、其処で合致できればと云う事だけじゃダメなんですよ。

JAXA 田中：勿論です。勿論です。

池上：ですから、良く分らないのはですね、今回のフライトの為の協力協定の話なのか、それとも「きぼう」まで展開した話なのかどっちなんですか。主なのはものを貸すと云う話と云う事ですよね。違うの、此れは。何で「きぼう」の話が此処へ出て来る訳。

JAXA 田中：日韓協力の席上で三つ、二つの、宇宙飛行士の時の協力を合意した際に、同時期にまあ具体的な JEM 利用に向けた検討やりましょうという合意もやったものですから、併せた報告させて頂きました。

池上：じゃあ違う話、此れ。

JAXA 田中：違う話で御座います。

池上：そうしますとね、其の二つ、物をお貸しすると云う話ですけど、良く分らないのは此のカメラはね、何で此れ色々注文付けて、使い方まで色々言って貸すんですか。多分コ・サンさんって云うのは日本と同じように韓国にとっては英雄になる訳ですよね。彼が勝手に撮るってんで良いじゃないですか。色々注文付けて随分大人げないなと。何か其れは理由が有るんですか。ロシアのモジュールに行くから色々心配だとか、或いは画像の著作権の問題とかって話でこう色々

---

[9] 其の通りであるが、どうも伝わっていない。但し、基本方針を明示して来なかったのは宇宙開発委員会または、更に上位の為政者の責任である。

JAXA 田中：何を撮って行くかってのは予め決めておかないと宇宙飛行士も困りますので、まあ、此のカメラを使ってどう云うものを撮るってのは予め決めると云うのが普通で御座います。そう云う意味で、何を撮るかって事をあらかじめ日韓で調整して決めたと云う風にご理解頂ければと、

池上：勿論彼らが自由に撮るものも有る訳ね。

JAXA 田中：勿論有ると思います。

池上：（発言が重なって聞き取れない）ってますよってこう云う話じゃ無い訳ね。一寸大人気無いと云う感じする訳ですよ。

JAXA 田中：いえ、そんな。

青江：日本の施設な訳よ。日本の税金を使った。此れをホイホイ使わせたらいかんのじゃないですか[10]。

池上：いや、ですから、国際協力と云う話であるとすればね、掛けた金と使い方によってお互いの協力関係が更に深まると云う事のリターンと考えて来ますとね、何が良いかってのはそう簡単には行かないですよね。

青江：いや、だから、だから其処はキチンと整理をして、使い方を決めなきゃいかんのじゃないんですか。言って有るから使って貰ったんじゃ困るんじゃないんですか。

池上：表現の仕方の問題かも知れない。要するに、全部事細かに決めてこうしろって言ってる訳じゃ無い訳でしょ。

JAXA 田中：まあ、我々。

池上：そんな馬鹿な事やって無いでしょ。

JAXA 田中：そんな事やってません。お貸しすればお貸しして、我々としても其の得たデータを活用したい、其の為にはこう云う内容は撮って下さいと云う事はお願いしている訳です。

池上：だから放っといたって日本のハイテクの技術ってのは評価される訳だから、色々押し付ける必要はないんであって、寧ろ使う側の韓国の最初の宇宙飛行士の立場に立ってね、彼が皆から韓国人から拍手されるようなね、使い方をしてもらうと云う様な事も十分配慮した方が良い。

JAXA 田中：勿論韓国側、韓国としてはこう云う使い方すると云う事で予定しておりますし、あの、今、先生仰った様になってると云う風に理解してます。

松尾：具体的に、まあ良いや、禁止条項は有るんですかね。

JAXA 田中：まあ撮ってしまうものに対しては、まあ、或る、あの色々。例えばその画像使う際にですね、色んな著作権の問題だとか肖像権の問題とか生じますので、其処は使う前にチャンと評価する必要があると思います。其処は一応ルールを作って対応しております。あ、尚、今回撮ったデータ、まあ直接ヒューストンの方にダウンリンクする事も考えておりますし、あとは撮ったテープを韓国が持ち帰ると云う事を考えて居ります。一部はプレス、あの記事でリアルタイムでやると云う記事は出てたんですけど、今の処リアルタイムでやると云う予定は御座いません。一寸補足です。

松尾：はい、どうも有難う御座いました。

---

[10] 其の通り。更に、ISS の安全標準に合致する使い方をする為、日本が宇宙飛行士を訓練させる事は当然必要である。